

第37回北海道麦作共励会審査報告

平成28年度の第37回北海道麦作共励会の出展者の麦づくりおよび審査結果の概要について審査委員を代表して報告申し上げます。

平成28年産の秋まき小麦は、10 a 当たり収量434kgで前年対比68%と大きく落ち込み、平年対比では98%と平年をやや下回りました。

春まき小麦では、10 a 当たり収量309kgで前年対比93%とやや落ち込みましたが、平年対比では106%と平年を上回りました。

全道の収穫量は、約51万トン、当初約51万トンの収穫量を見込んでいましたので計画対比100%の収量となりました。作付面積は、約12.2万haで前年対比100%でした。

品質面では秋まき小麦の1等麦比率が約73%と過去5年間で最も低くなりました。また、春まき小麦では、赤かび病の発生など平年並となり、千粒重や製品歩留まりも良好でした。その結果、1等麦比率では、約92%を確保できました。

収量で昨年を大きく下回った要因として、特に主産地において出穂期や開花期前後の低温・長雨・日照不足により受粉環境が悪く不稔が多発しました。また、7月下旬から8月上旬の連続した降雨により穂発芽による品質低下も多く発生しました。

次に麦作共励会の経過について申し上げます。8月18日に第1回審査委員会を開き、8月19日付けで各地区協会に案内、関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

本年度は、主産地での作柄はふるいませんでしたが、関係者の協力により7点の出展を得ることができました。

7点の内訳は、第1部（畑地における秋まき小麦）個人で3点、第2部（水田転換畑における秋まき小麦）個人で2点、同集団で1点、第3部（全道における春播き小麦）個人で1点でした。

11月8日に第2回審査委員会を開き、推薦調書を基に審査を行い、部門毎の賞を選考し、12月2日までに現地調査を行い、正式に各賞を決定いたしました。

以下、最優秀賞者の麦づくりの概要について紹介いたします。

【畑地における秋まき小麦・個人】部門

旭川市の佐野氏は、旭川市西神楽にあって畑作物の専業経営を行っています。約35haの畑地に小麦、てんさい、小豆・加工用スイートコーン、ばれいしょを栽培しています。

秋まき小麦は「キタノカオリ」を作付し、硬質系小麦でありながら製品収量約10俵の収量を安定的に生産しています。等級も全量1等、ランク区分も基準値内と申し分のない小麦でした。

安定生産を達成している麦づくりの要因として、土壌硬度の固さを克服するため、堆きゅう肥施用と加工用スイートコーンによる土壌物理性の改善に心がけています。また、小麦の観察を徹底し肥培管理をこまめに行っています。

【水田転換畑における秋まき小麦・個人】部門

美唄市の杉野氏は、美唄市中村地区にあって水田+畑作の複合経営農家です。経営面積は約17.5haで、内水田面積は7haです。

平成28年産の収量は、640kg/10 a と過去2年も含めて10俵を超える成績でした。

最近、田畑輪換に加え、輪作作物としてナタネや実取りコーンを取り入れています。また、

作業の効率化とコスト削減を目指し、3戸による機械・施設の共同化と作業受託組織を立ち上げました。

【水田転換畑における秋まき小麦・集団】部門

有限会社岐阜コントラクターは、岩見沢市栗沢地区にあって平成16年に設立し、現在9戸11名で構成されています。

経営面積は約68haで、内小麦面積は29haです。

平成28年産の収量は、691kg/10aで地区平均の1.4倍で、製品歩留まり率では94%の成績でした。

当組織は、地域における生産性向上・農業経営の安定化・後継者育成などに大きく関わっており、地域を牽引する組織として、今後の集落営農に大きく貢献することが期待されています。

【春まき小麦における全道一円・個人】部門

佐藤氏は、黒松内町目名地区にあって畑作専門経営を行っています。

48haの経営面積に、小麦、ばれいしょ、豆類、直播てんさいを栽培しています。

平成28年産の収量は、449kg/10aと町平均の1.5倍と高く、1等麦比率も90%と高い成績でした。

明・暗きよの整備や前年にサブソイラ施工による心土破碎などで、排水対策を万全にしています。また、輪作体系を守るために、近隣酪農家との交換耕作によりサイレージ用とうもろこしを栽培しています。加えて、堆きゅう肥も3～4年に一度施用し土壌物理性の改善に努めています。

以上のように、それぞれ受賞された皆さんは、輪作体系を守り、土づくりを基本に、透・排水性を改善し、きめ細かな肥培管理に心がけています。

また皆さんは地域の仲間を大切に、地域のすばらしい牽引力となっております。これまでのご努力に敬意を表するとともに、この度の受賞を心からお祝い申し上げたいと思います。

最後に、本年度の麦作共励会に関係された皆さんにお礼申し上げるとともに、今後とも北海道の麦作振興に尽力されることをご祈念申し上げて審査報告と致します。

第37回（平成28年度）北海道麦作共励会審査委員長

北海道農業研究センター作物開発研究領域長 入 来 規 雄